

令和 6 年度資料委員会活動報告

1. 会議等の開催状況

(1) 資料委員会

- ・ 令和 6 年度事業計画(案)についてメール審議(令和 6 年 8 月)
- ・ 国大図協ビジョン 2025 の推進にかかる予算措置申請についてメール審議(令和 6 年 9 月)
- ・ 活動経過報告(案)についてメール審議(令和 6 年 10 月)
- ・ 作業部会委員募集についてメール審議(令和 6 年 11 月)
- ・ 資料委員会委員と作業部会委員のオンラインミーティング(令和 7 年 1 月)
- ・ 活動報告(案)についてメール審議(令和 7 年 4 月)

2. 令和 6 年度の活動内容について

オープンサイエンス・オープンアクセスへの対応と電子資料整備のあり方の検討や立案を一体的に行うため、オープンサイエンス小委員会と電子資料小委員会の廃止を含む「国立大学図書館協会各委員会事業内容」の改正を提案し、令和 5 年度春季理事会(令和 6 年 5 月)で承認された。

令和 6 年度は委員 10 名と公募に応じて会員館から参画した作業部会委員 13 名が、JUSTICE、JPCOAR と連携しつつ、事業計画に基づく活動を行った。事業計画の各項目の活動状況は次のとおりである。

A) ポリシーの策定を含むオープンアクセスおよびオープンサイエンスの実践に各会員館が寄与できるよう支援を行う。

公開勉強会「研究成果の可視化と大学図書館」を開催した(R7.1.10, 会場:大阪大学&オンライン)。177 名の参加者があり、「学術コミュニケーションの大きな転換期の渦中にある今、図書館の役割を整理でき、ヒントが得られた」「幅広い視野からの指摘に大いに刺激を受けた」との意見が数多く寄せられ、今後の取り組みに向けて意識を高める機会となった。

<https://www.janul.jp/ja/projects/sirc/20250110>

B) 海外のオープンサイエンス政策および各機関の対応を調査し、日本において参考になる事例を共有する。

① オープンアクセス、オープンサイエンス、研究データ管理、ジャーナル契約等を含む図書館情報学や学術出版流通をテーマとした海外ジャーナルの雑誌記事索引(和訳版)を「関連誌新刊号記事索引」として作成・公開し、随時更新している(R7.1.23~)。

<https://docs.google.com/document/d/1tSkNSH2lmGMMykd11jdBpmx7m0VQ93GLLB8WDXf68skA/edit?usp=sharing>

② 関連国際会議の視察として、RDA 24th Plenary Meeting(R7.4.7-11)に作業部会委員 1 名がオンライン参加した。JPCOAR との共催で参加報告会を開催し、95 名の参加があった(R7.4.24)。

③ 海外大学図書館との情報交換のため、オープンアクセスへの取り組み等について香港大学図書館との情報交換会を開催し、54 名の参加があった(R7.3.24)。

C) 転換契約における学内運用の実践例を収集・分析・共有する。

国立大学における転換契約の傾向の分析、会員館間の情報共有の計画を立案した。運用面では転換契約による増額分の予算確保の方法、著者負担を求める場合の徴収方法や徴収後の取扱い、会計検査への対応などについて、また成果としては転換契約の実績・効果、学内の反響などをそれぞれ収集、分析、共有する予定である。

D) 国のOA方針の実施に向けた課題を整理し、各ステークホルダーとの対話を通じて大学図書館の意見を届ける。

① ステークホルダーとの対話として、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局との意見交換(R6.7.31)、日本学術振興会(JSPS)との意見交換(R6.9.26)、英国 Jisc(Joint Information Systems Committee)との意見交換(R6.11.7)を行った。

② 公開イベントとして、研究イノベーション学会での研究者・紀要編集者との意見交換(R6.10.30)を開催し、また英国のOA政策について分析し、会員館に共有する「英国 REF2029 Open Access Policy を読む」(R7.2.28)を JPCOAR と共催(JUSTICE が協力)により実施した。後者は昨年度にオープンサイエンス小委員会が開催した「英国オープンアクセス政策対応等調査報告会」のフォローアップに相当する。

E) 各会員館における国のOA方針の周知・広報を支援する。

① 会員館職員が外部資金の申請・交付・成果報告等の流れについて基本的な理解を得る機会として、「科研費について教えてもらう会」を2回(講師:研究推進部署の職員、URA)(R7.2.25 および 3.4)を開催した。それぞれ250名、256名の参加があり、多くの会員館職員の知識共有・向上に寄与した。

② 「OA推進事例共有:成功も失敗もみんなでシェア」として、会員館の取組みを共有する仕組みを構築し、周知した。今後、毎月メーリングリストにより情報提供しながら呼びかけるとともに、イベント等を開催予定である。

F) 海外ジャーナルの動向を含め、AIが学術情報流通に与える影響を調査し、課題を整理する。

「国立大学図書館協会の活動におけるAIへの対応について」(R6.11.5)において要請された、各委員会の事業内容におけるAIの課題についての現状把握を趣旨とし、月1回程度の定期公開ミーティングで情報交換を行い、オンライン上の情報収集・提供サイトの構築やイベント開催を計画している。

また、事業計画全体に付随する活動として、オープンアクセス、オープンサイエンス、研究データ管理、ジャーナル契約等をテーマとして国内で開催されるイベントの一覧を作成・公開し、随時更新している(R7.1.23~)。

「イベントカレンダー」

https://docs.google.com/document/d/1XNidLKC2jslXGg8aHwpyHwqmlIOZ_Q_Y6MePSZGpeNk/edit?usp=sharing

3. 委員構成

◎資料委員会

| | | |
|--------|--------|-------------------------------------|
| 委員長: | 永盛 克也 | 京都大学図書館機構長・附属図書館長 |
| 委員長代行: | 尾上 孝雄 | 大阪大学附属図書館長○ |
| 委員: | 高橋 菜奈子 | 新潟大学学術情報部長 |
| | 清水 史子 | 福井大学経営企画部情報企画課長● |
| | 飯田 智子 | 名古屋工業大学学術情報課長● |
| | 杉田 茂樹 | 京都大学附属図書館事務部長 |
| | 野中 雄司 | 京都大学附属図書館研究支援課長 |
| | 小陳 左和子 | 大阪大学附属図書館事務部長○ |
| | 萩 誠一 | 大阪大学附属図書館学術情報整備課長 |
| | 井上 敏宏 | 大阪教育大学学術部長(兼)学術情報課長○ 大阪教育大学学術部長● |
| | 鈴木 雅子 | 九州大学附属図書館事務部長 |
| | 堀 優子 | 九州大学附属図書館eリソース課長 |
| 事務局: | 金藤 伴成 | 京都大学附属図書館総務課長 |
| | 飯田 智子 | 京都大学附属図書館総務課課長補佐○ |
| | 筑木 一郎 | 京都大学附属図書館総務課課長補佐● |

○資料委員会作業部会

| | |
|--------|--|
| 三関 紫芳 | 北海道大学附属図書館利用支援課学習支援企画担当係員○ 北海道大学学術情報部図書館利用支援課学習支援企画担当係員● |
| 石崎 睦 | 北海道大学附属図書館利用支援課北方資料担当係員○ 北海道大学学術情報部図書館企画課図書受入・目録担当係員● |
| 加藤 舞 | 東北大学附属図書館情報管理課受入係主任○ 東北大学附属図書館情報管理課図書情報係主任● |
| 中島 大 | 東北大学附属図書館情報管理課雑誌情報係主任 |
| 松野 涉 | 筑波大学学術情報部アカデミックサポート課主任 |
| 大橋 拓真 | 東京大学附属図書館情報管理課情報管理チーム選書受入担当 一般職員○ 東京大学附属図書館情報管理課情報管理チーム選書受入担当主任● |
| 直江 千寿子 | 名古屋大学附属図書館情報サービス課(医学部分館)課長補佐 |
| 福井 英恵 | 愛知教育大学学術研究支援課図書館運営室電子資料係長 |
| 坂田 絵理子 | 大阪大学附属図書館図書館サービス課情報ナビゲート班 学習・調査支援担当図書職員 |
| 花崎 佳代子 | 神戸大学附属図書館情報管理課電子情報グループ専門職員 |
| 杉田 佳凜 | 鳥取大学研究推進部図書館情報課一般職員 |
| 辻村 大樹 | 山口大学学術基盤部学術基盤推進課図書管理係図書系主任 |
| 金子 芙弥 | 九州大学附属図書館eリソース課eリソース管理係図書館職員 |

凡例 ○:令和7年3月31日まで

●:令和7年4月1日から